どんでん返し「大阪都」

日本経済新聞 1 月 15 日朝刊「春秋」から紹介したい。

「どんでん返し」は江戸中期の大坂で始まったらしい。といっても、この言葉のもとになった歌舞伎の舞台転換技法のことだ。大道具をそっくり 90 度うしろへ倒して瞬時に場面を変えてしまう。「大阪都」をめぐる年末からのどんでん返しは誰のシナリオなのだろう。住民投票に反対していた公明党が突如賛成に回り、大阪市解体の是非を 5 月 17 日に市民に問う方向になった。方針転換は地元の発案ではなく、東京の公明党本部が求めたそうだ。よほどの思惑があってのこと、と勘繰らないわけにはいかない。

公明党は都構想そのものには反対し、投票での否決を訴えていくという。たしかに最後は民意がすべてだが、そもそも投票にかける新制度自体への疑義が少なくない。どんでん、どんでん。こんな鳴り物の響きとともに舞台が変わるからどんでん返しというそうだ。大向こうからはヤンヤの喝采、この勢いで住民投票も可決だと橋下さんなど意気盛んかもしれない。さてしかし、こうなった以上は構想の中身がつぶさに問われること必定だ。かねや太鼓の音ばかりでは愛想を尽かされよう。

皮肉をこめた「春秋」のように、年末からの急展開には正直驚いた。どんでん返しのシナリオは、先の総選挙前あたりから練られていたのではないか。総選挙に橋下・松井両氏が、「憎き公明党退治」のために維新の会から立候補するというニュースが流れた。まもなくして立候補「辞退」となったが、ここらあたりに「裏取り引き」があったのでは、と疑いたくなる。ぜひともメディアは「真相」に迫ってほしい。

16 日の産経新聞によると、橋下大阪市長は 15 日の記者会見で、安倍首相が「大阪都構想」について「意義がある」と一定の理解を示したことに対し、「大変ありがたい。うれしくてしようがない」と述べた。首相が維新に協力を期待した憲法改正についても「憲法改正は絶対に必要だ。安倍首相にしかできない。できることは何でもしたい」と語り、全面的に協力する意向を示したという。憲法改悪も絡んだ動きのようだ。

このあたりにもシナリオが隠されているのでは。写真は中日新聞 1 月 14 日にカラーで掲載されたイメージ図である。「大阪都」(正式には「新大阪府」)は大阪市を解体し、5 つの「特別区」に再編するものだ。昨年 12 月 21 日にもレポートしたが、とにかく生煮えの構想であり、究極の大阪つぶしである。「大阪都構想」というよりも、「大阪市解体」「大阪つぶし」の策略として、ここ当分は目が離せない。

(2015 年 1 月 18 日)